

報告

バリアフリー 2014

広島国際大学 齋 礼

1. はじめに

2014年4月17日(木)～19日(土)、インテックス大阪において第20回高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展バリアフリー2014¹⁾(以下、バリアフリー展)が開催された。国内外350余りの組織による展示、講演、セミナーなどが行われ、昨年度より3千人余り多い9万6千人余りの来場者があった(バリアフリー展ウェブサイトより)。

2. 報告

バリアフリー展は、昨年度同様、インテックス大阪の1～5号館において開催され、各館ごとにテーマが決められ、展示やセミナーが行われた(図1)。



図1 展示会場内の様子

「入浴関連」、「トイレ設備」、「介護予防・リハビリ」に関するテーマ館では、利用者が快適かつ安全に生活できるよう工夫された商品があり、説明を受けながら、実際に体験使用もできる。入浴設備のように、被介護者、介護者ともに無理のない体力、姿勢で利用できる設備が広まることを願う。

「介護関連」、「自助具」、「コミュニケーション機器」、「緊急警報・セキュリティ関連」、「ベッド・マット」などに関するテーマ館では、各種リハビリや介護支援に関する展示とともに、ITC(情報通信、情報処理技術)を活用した展示も見られた。人口の高齢者シフトが進む今後、限られた人数で効率よく見守りを行う工夫はさらに進める必要がある。

「福祉車両」、「車いすなどの移動機器」、「住宅関連」、「リフト・昇降機」のテーマ館では、車いすのまま乗り込めるように工夫された福祉車両のほか、自立歩行や介護、あるいはコミュニケーションを支援する福祉ロボットが展示され、多くの参加者の目を引いていた。福祉ロボットは、多くの姿かたちで、今後ますます期待の広がる分野である。

3. おわりに

本学総合リハビリテーション学部リハビリテーション支援学科では、新入生のオリエンテーションを兼ねてバリアフリー展を見学している。各自熱心に見学し、帰校後に提出されたレポートを読むと、細かい点まで良く観察、考察している。

一方、この原稿を執筆中に、妻の父親が散歩中に転倒し、骨折、入院、手術後に無事退院した。妻は介護用品カタログの手すりのページとメジャーを持って寝室やトイレを往復している。バリアフリー展で見た手すりが脳裏に浮かぶが、不覚にも肝心なところが思い出せない。グーグルマップのストリートビュー²⁾のようにバリアフリー展の会場を今一度見ることができないかと強く思った。

【参考 URL】

1) バリアフリー展 <http://barrierfree.jp/>

2) ストリートビュー

<https://www.google.com/maps/views/streetview?gl=jp&hl=ja>

広島国際大学

〒739-2695 広島県東広島市黒瀬学園台 555-36